

◆2017 年度活動報告

DPI 世界の役員が 2020 年開催予定の DPI 世界会議パリ大会や定款の見直しなどについて検討を行っており、中西正司 DPI アジア・太平洋ブロック（以下、DPI-AP）議長が DPI 世界の会計として、会議に参加した。

DPI が 2016 年 9 月から南アフリカハウテン州において JICA 草の根技術協力事業として実施している「アクセシブルなまちづくりを通じた障害者自立生活センターの能力構築」事業では、リフト付きバンの中古車両を日本から寄贈し、運用に向けた準備が進んでいる。また、2 月末にはハウテン州社会開発州大臣や行政官が来日し、同州と DPI のパートナーシップを結ぶための検討等も行われた。当事業に対する同州の関心が高まっている。

2017 度も JICA 課題別研修「アフリカ地域 障害者のエンパワメントを通じた自立生活促進」を受託し、6 か国 8 名の障害当事者団体及び行政機関からの研修員に対し、日本とタイにおいて、障害者の自立生活運動の重要性を伝える研修を実施した。また、障害者の自立生活の達成に向けて「世界銀行・JICA 共催セミナー - 持続可能な開発目標(SDGs)と障害者の自立生活-」を開催し、今後どのように SDGs を活用していけばよいか議論を深めた。

DPI 北海道が JICA から受託した、青年研修「バングラデシュ／障がい者支援制度コース」では、東京での講義の実施や研修員が作成するファイナルレポートに対する協力を行った。また、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業を通じて、ネパール・フィジー・パキスタンから研修員 3 名を受け入れ、DPI の活動、障害女性の問題等を伝えた。

7 月に開催された NCIL（全米自立生活センター協議会）総会に合わせて、グローバル IL サミットを開き、19 ヶ国の自立生活センター代表が参加し、ワールド・インディペンデントリビングセンター・ネットワーク（略称：WIN）が設立され、日本からも多くの障害当事者が参加した。日本の若手当事者はアメリカの障害者運動を学ぶために「ADA27 LEAD ON! YOUTH PROJECT」を立ち上げ、自ら主体となって資金集めを行い、NCIL 総会、グローバル IL サミット、ADA27 式典への参加に加え、サイドイベント開催などを行い、日米の若手交流も深まった。

また中西由起子副議長が SDGs 市民社会ネットワークの理事に就任した。他分野の NGO とのネットワークを強化するとともに、国内での SDGs 実施推進にむけ障害の視点が組み入れられるよう政府に要望するなど働きかけを行った。

◆2018 年度活動方針

2017 年度より全米障害者自立生活センター協議会(NCIL)との連携や南アフリカ政府との連携など、従来のアジア太平洋の枠を超えて強化されてきた。会員団体においても国際協力の機会も増え、それらを踏まえて以下の分野を活動の中心として事業を展開していく。

(1) 南アフリカでのプロジェクトの実施とアフリカ他地域への自立生活運動の推進の強化

南アフリカでの JICA 草の根事業「アクセシブルなまちづくりを通じた障害者自立生活センターの能力構築」では、カウンターパート代表の突然の死去により今まで育成してきた IL センター職員の運営責任が重くなってくる。彼らをさらに支援するかたちで、南アフリカ国内で知名度が上がってきた自立生活センターが国内の他地域での設立のモデルとなるよう残り 1 年で強化を図る。モデルづくりは、アフリカの他の国との障害当事者団体との協力連携が自立生活センターを軸に発展する布石としたい。

JICA の課題別研修 「アフリカ地域障害者のエンパワメントを通じた自立生活促進」は、実施予算の減少で研修生や研修日程が削減されるが、その質は維持するように努める。研修最後のタイでのフォローアップは、タイの自立生活センターの支援を仰ぐだけでなく、彼らのエンパワメントの機会ともなるウイン・ウインのプログラムとしていく。

(2) SDGs での障害の重要性への認識の強化

障害分野での持続可能な開発目標（以下、SDGs）の普及、および政府や市民社会団体での SDGs での障害の重要性の認識が強化されるように努める。DPI 内ではその意義や内容の周知に努めて、政府の SDGs アクション・プラン 2018 の不十分な内容が 2019 年にも継承されないように意見を言っていく。

市民社会団体のネットワークの中では、DPI 日本会議が障害当事者として SDGs に関する意見を発信していく機会が増えたので、この機を逃すことなく発言を強化していく。発言の場では LGBT や難民、女性などの問題と合わせて障害が取り上げられるので、彼らマイノリティ団体とも協力して特に人権の視点で SDGs の達成を訴えていく。

(3) 国際レベルでの DPI 発展のための取り組み

2011 年の第 8 回 DPI 世界会議で世界議長に選ばれてから長期にわたり規約を外れた形態の世界評議会を率いてきたインドのジャビッド・アビディが逝去した。従来のメンバーから成る DPI が呼びかけていた統一が達成されないまま、混乱の中に取り残された途上国の障害者団体がいる。世界評議会に代表を送っている日本は、彼らも巻き込んでの再建の一翼を担っていく。

SDGs や権利条約に関心が向くことで、アジア太平洋障害者の十年（2013-2022）への関心がうすれている。アジア太平洋での DPI の活動を小ブロックを中心に活性化し、アジア太

平洋障害者の十年が障害者の運動に利するように努めていく。